

キズナ強化プロジェクト(派遣プログラム) アクションプラン

No.	アクションプラン詳細
1	<p>しおりで元気にプロジェクト</p> <p>WHAT :被災地にしおりと本を贈る&被災地の公共施設で活動内容報告 WHY :プロジェクトを通して、ラオスの方々(学生)が、日本および東日本大震災のことについて思ってくれているという事実を実感した。その事実を被災地に伝えたいと思った。 TO WHOM :被災者 HOW :共同制作で作成したしおりと本を被災地に届ける。その際に、被災地の公共施設でキズナ強化プロジェクトの活動報告およびラオスの紹介を行う。※本の受け入れ先に関しては、心当たりあり WHEN :今年中</p> <p>GOAL :被災地を元気づける&ラオスの認知度向上</p>
2	<p>“ツナグキオク”プロジェクト</p> <p>WHAT :被災地以外の公共施設で、東日本大震災の被害の様子・復興状況の発表およびキズナ強化プロジェクトで学んだ“日本とラオスのつながりの強さ”を伝える。 WHY :ラオス人学生との交流を通じて、ラオスの方々は「東日本大震災があった」という事実は認識しているが、実際に「何が・どの規模で・どのようにおこったのか」に関する認識は曖昧ということが分かった。そこから、日本の被災地以外の地域での東日本大震災への認識の度合いも、日本と遠く離れたラオスの人々と同じくらいなのではないかという疑念を抱いた。記憶の風化防止のためにも、被災しなかった方々に震災のことを伝え、記憶をつなぐことが必要だと思い、当プロジェクトの発案に至った。同時に日本とラオスの関係(日本のODAやラオス政府の義援金等)を広めることもねらいに据える。 TO WHOM :被災地域外に住む人 HOW :公共施設での講演(ムービーや紙芝居などを用いて、どの世代にもわかりやすく) WHEN :今年中</p> <p>GOAL :被災地域外の人々の記憶風化防止</p>
3	<p>ラオスPR動画プロジェクト</p> <p>WHAT :キズナ強化プロジェクトを通じて気づいたラオスのよいところ、ならびにキズナ強化プロジェクトを紹介するムービーを作成する。 WHY :プロジェクト中にお世話になったラオスの方々、およびプロジェクトに携わった日本の方々への感謝の気持ちを、“かたち”に残したいと思ったから。 TO WHOM :日本の人々&ラオスの人々 HOW :派遣団が気づいたラオスのいいところを映した写真やムービーをつなぎ合わせて、「ラオスという国の紹介」と「キズナ強化プロジェクトの活動内容の報告」の2つの要素を含んだ動画を作成する。完成後は大使館やラオス国立大学など、プロジェクト中にお世話になった機関にそれぞれ提出する。また、YouTubeやSNSなどに投稿し、世界的にシェアする。 WHEN :6月まで</p> <p>GOAL :ラオスの認知度向上 & 当プロジェクトを形に残す</p>